

# 下野市立吉田東小学校

## 1 学校課題

言語活動を生かした各教科等の学習指導の在り方

～児童の基礎的・基本的な知識・技能を高めるとともに、自ら思考・判断し、表現する力をどう育てていくか。～

## 2 今年度の研究の方向

(1) 本校児童の課題として

- ① 本校の児童の実態から、「分かっているがうまく伝えられない」ことへの指導方法を更に検討していく。
- ② 説明する活動は繰り返しその経験を積むことが何より大切である。特定の教科学習に限らず、話す活動を意図的に仕組んだ活動を進める。また、自分の言葉を説明させる際に理由付け等を行わせる。

(2) 今年度の研究の方向について

- ① 教科、領域を特定せず、その実践者が今年度の学級の実態を踏まえ、その実態に即した言語活動を学習の中に積極的に取り入れていく。
- ② 短期的、長期的な部分から、年度末に望まれる児童の姿を見据え、その実現のために継続的・計画的な言語活動のあり方を検討していく。
- ③ 言語活動を生かした学習を通して、児童の思考力・判断力・表現力及び活用力を育てられるかを検討していく。
- ④ 本校の教師の基本姿勢である「認めて 褒めて 励まして 信じて 待って 見届ける」を学習の中で具現化していくことを検討していく。

## 3 研究のための仮説

学習の中に、児童の言語活動を意図的・計画的に取り入れ、その充実に組織的に取り組んでいけば、その教科等における児童の基礎的・基本的な知識・技能が育ち、それらを活用する力が高まり、より主体的に学習に取り組もうとする意欲や態度が育つのではないか。

## 4 研究内容

(1) 実施教科での、学習を通して児童に育てたい資質・能力・態度を明確にしていく。

- ① 特に今年度は、授業者自身が研究を進めたい教科における児童の育てたい姿を明確にしていく。
- ② 研究を進めたい教科における、単位時間でのねらいをより具体化・明確化し、それらを累積していけるようにする。
- ③ 診断的評価等に基づいた、その教科における児童の実態把握を進めていく。

(2) 言語活動を生かした、教科のねらいや児童の実態に応じた学習方法を検討していく。

- ① その学習内容において、言語活動の場面設定をすることや、学習のねらいに沿った学習方法、学習形態の工夫を図っていく。
- ② 研究を進めたい教科の他にも、自学年の学習で有効と捉えられた言語活動の内容及び方法について検討を図っていく。

(3) 学習を通しての指導と評価の一体化を図っていく。

- ① その教科や学習内容に合った評価方法の検討を進めていく。
- ② 本校の教育活動の基本方針である、「認めて 褒めて 励まして 信じて 待って 見届ける」の具現化を図り、そのための指導・支援の手だてを講じていく。
- ③ 指導に生かせる評価をより具体化し、そのためにどのようにしていくか検討を図る。

#### (4) 研究実践授業

- ① 4年 音楽 川のイメージから音楽をつくろう (6/5)
- ② 2年 国語 お話の作者になろう (7/1)
- ③ 1年 算数 10までのかず (9/18)
- ④ 5年 体育 交流児童の実態に沿った運動を考えよう (10/18)
- ⑤ 3年 国語 かるたについて知ろう (1/24)



(4年音楽授業から)

## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ① 学習活動の中で、児童の生活体験から学習課題を設定し、グループ一人一人のイメージに合わせて言葉や絵に表す等の活動を進めた。本時では児童の学習への意欲付けを図るとともに、自分の思いをしっかりと伝え、それぞれを認め合う活動につなげることができた。
- ② 自分で作った話を友達と交換して読み合う等、それぞれの学習段階での伝え合いの活動を組み込むような学習活動を進めた。児童は自身の考えを自然に伝え合うことができ、活動を通しての学び合いを深めることができた。
- ③ 同一のものを違う方法で教え、どの方法がより望ましいかを児童に考えさせる等の活動を取り入れ、それらの結果を児童自身の言葉でまとめさせた。児童の考えを揺さぶり、思考を深め、表現力の育成に効果的であった。
- ④ 児童の実態に即して、これまでの既習経験を生かしたり、具体的な絵図や映像資料を用いたりした。また、手本となるような具体例を示し、そのよさを感じ取らせる働きかけを行うことは、児童の学びを支えるのに効果的であった。

### (2) 課題

- ① 授業で用いる素材が児童には使いにくい場合には、事前に予備的な活動を進めておく、最初にイメージしたものがずれてしまった場合には、学習活動を進める中で修正できるようにしていく等、児童の実態に合わせた柔軟な学習計画を立てられると良い。
- ② その教科本来の学習のねらいを明確に定め、そのねらいに沿った学習活動を設定していくことが大切である。そのためには、その教科のみにとどまらず、他教科や道徳、特別活動等の学習を関連させることも一つの方法である。
- ③ コミュニケーション能力の育成には、「聞いたことには必ず質問する」→「その理由を必ず伝える」ことが大切である。また、「相手意識を持ち」「与えられた分量で」「その意図に沿った内容で」書くことを日常的に指導していけると良い。
- ④ 近年の国語の学習では、「単元を貫く言語活動の設定」が重視されている。そのためには、
  - ア 本単元で付けたい力を見極める。
  - イ 付けたい力を確実に付けるための最適な言語活動を選定する。
  - ウ 言語活動を単元を貫いて位置付ける。
  - エ 子どもの「大好き」「知りたい」「伝えたい」を重視する。等の段階を踏んだ指導が大切である。児童がその学習内容の目的に応じて、自身の思いや願いを生かした表現を膨らましていけるような指導過程を工夫できると良い。
- ⑤ 指導と評価の一体化については、その教科の特性や学習内容に応じて検討していけると良い。その際に、できる限り児童の活動等の様子が具体的に見取れるような評価規準を設定し、指導に生きる評価を行い学習意欲の向上に生かす。